

令和4年度教育研究活動報告書

氏名	林 直樹	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	博士（経済学）	職位	准教授
専門分野	経済学史・社会思想史		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	社会思想史、外国書講読Ⅱ、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰa、専門演習Ⅰb、専門演習Ⅱa、専門演習Ⅱb、特別演習Ⅳ、特別演習Ⅴ、特別演習Ⅵ、経済学史、日本経済論
大学院	経済学史特論、研究指導（論文指導）Ⅰ、研究指導（論文指導）Ⅱ
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）イングランド啓蒙：ベイズとプライスの確率論を軸として	
（2）初期近代ブリテン社会思想史	
（3）欧米・日本経済学史	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R4・R3・R2	
R4	〈事典〉イングランド啓蒙、単著、『啓蒙思想の百科事典』丸善出版、102-103頁、2023年1月 〈論文〉ベイズ「偶然論における一問題の解法」(2)、単著、尾道市立大学経済情報論集22巻1号、35-78頁、2022年6月 〈論文〉社会思想史研究とテキストマイニング、単著、愛知学院大学論叢、経済学研究9巻2号、107-126頁、2022年3月（刊行は4月以降） 〈書評〉柘植尚則『近代イギリス倫理思想史』、単著、マルサス学会年報31号、73-77頁、2022年3月（刊行は4月以降）
R3	〈論文〉ベイズ「偶然論における一問題の解法」(1)、単著、尾道市立大学経済情報論集21巻1号、69-108頁、2021年7月
R2	〈研究ノート〉ロバートソンはなぜカッシーラーを批判したか：『啓蒙とはなにか』を批判的に読むための補遺、単著、尾道市立大学経済情報論集20巻2号、1-8頁、2020年12月 〈書評〉田中祐子『公共的知識人の誕生：スウィフトとその時代』、単著、社会思想史研究44号、149-153頁、2020年9月
R1 以前の主な研究業績	
（1）〈著書〉デフォーとイングランド啓蒙、単著、京都大学学術出版会、2012年6月	
（2）〈論文〉ミシシッピ・バブル後のブリテン：ジョン・ロー来訪をめぐる信用論争、単著、坂本達哉・長尾伸一編『徳・商業・文明社会』京都大学学術出版会、2015年3月	
（3）〈論文〉「ウッドの半ペンス」再考、単著・査読有、マルサス学会年報28号、35-65頁、2019年3月	
（4）〈論文〉バイコンと同君連合、単著・査読有、マルサス学会年報26号、31-53頁、2017年3月	
（5）〈翻訳〉ロバートソン『啓蒙とはなにか』白水社、野原慎司との共訳、2019年3月	
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R2・R3・R4	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
経済学史学会（幹事・総務委員【任期2021.04-2023.03】）、社会思想史学会、日本イギリス哲学会、マルサス学会、経済社会学会、史学会、中四国商経学会	